

1

次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、商品に関する勘定は3分法によること。

- 売買目的で保有している奈良商事株式会社の社債 額面 12,000,000 (帳簿価額 11,400,000) のうち、その3分の1を@98.50で売却し、代金は端数利息 40,000 とともに小切手で受け取った。
- かねて建設を依頼していた機械装置が完成し、引き渡しを受けたので、建設代金 50,000,000 のうち、すでに支払ってある金額を差し引き、残額 15,000,000 は小切手を振り出して支払った。なお、この機械装置の試運転費 600,000 は現金で支払った。
- 島根商事株式会社に売価 4,560,000 の商品を24回の均等分割払いの契約で販売し、同時に第1回目の割賦金を現金で受け取った。ただし、収益の計上は回収基準により、割賦売掛金・割賦仮売上の対照勘定を用いて処理している。なお、商品を販売したときに、売価の総額を対照勘定に計上することになっている。
- 広島海運株式会社は、所有する大型船舶の定期的な大修繕をおこない、その費用 37,000,000 を小切手を振り出して支払った。ただし、この大修繕のため、これまでに特別修繕引当金 34,000,000 が設定してある。
- 和歌山商事株式会社は、株主総会において、繰越利益剰余金を次のとおり配当および処分することを決議した。ただし、繰越利益剰余金勘定の貸方残高は 2,700,000 である。なお、資本金は 30,000,000 資本準備金および利益準備金の合計額は 7,400,000 である。
利益準備金 会社法に規定する額 配当金 2,000,000 別途積立金 350,000
- 京都商事株式会社は、次の条件で発行した社債のうち、額面 50,000,000 を発行後8年目の初頭に@99.10で買入償還し、減債用の定期預金から支払った。ただし、社債は償却原価法(定額法)によって評価している。
発行条件 額面総額 90,000,000 払込金額 @98.80
償還期限 10年 利率 年 2%
- 兵庫商店から売掛金 900,000 を期日前に受け取ることにになり、契約によって2%の割引をおこない、現金 882,000 を受け取ったさい、次のような仕訳をしていた。よって、本日、これを訂正した。
(借)現金 882,000 (貸)売掛金 882,000

2

次の各問いに答えなさい。

- 大阪商事株式会社の第8期の資料と第9期の資料および損益計算書によって、
 - 第9期の次の金額を求めなさい。
a. 売上高 b. 当期商品仕入高 c. 営業費用 d. 経常利益
e. 特別損失 f. 有価証券評価損 g. 償却債権取立益 h. 当期純利益
 - 商品の在庫期間が短く、販売効率がよいと判断できる期を選んで、解答欄の()のなかに○印を付け、その期の商品回転率を記入しなさい。(商品回転率は商品有高の平均と売上原価を用いること。)
 - 売上高に対する売上総利益の割合が高く、収益性が高いと判断できる期を選んで、解答欄の()のなかに○印を付け、その期の売上高総利益率を記入しなさい。

第8期の資料

- 期首商品棚卸高 3,420,000
- 期末商品棚卸高 3,580,000 (棚卸減耗費と商品評価損は発生していない。)
- 当期純売上高 55,000,000
- 当期純仕入高 38,660,000

第9期の資料

- 売上原価率は73%である。
- 法人税・住民税および事業税額は税引前当期純利益の40%である。
- 損益勘定の記録

損		益	
3/31仕入()		3/31売上()	
" 給料 8,400,000		" 受取手数料 148,000	
" 発送費 1,800,000		" 受取配当金 210,000	
" 貸倒償却 75,000		" 仕入割引 45,000	
" 減価償却費 960,000		" 償却債権取立益()	
" 雑費 47,000		" 固定資産売却益 34,000	
" 支払利息 36,000			
" 株式交付費償却 150,000			
" 有価証券評価損()			
" 除却損 120,000			
" 災害損失 1,300,000			
" 法人税等()			
" 繰越利益剰余金()			
<u>60,490,000</u>		<u>60,490,000</u>	

I 売上高	()	
II 売上原価		
1. 期首商品棚卸高	()	
2. ()	()	
合計	()	
3. 期末商品棚卸高	3,720,000	43,800,000
	()	()
III 販売費および一般管理費	()	4,918,000
IV 営業外収益	()	()
V 営業外費用	()	313,000
	()	()
VI 特別利益	()	87,000
VII 特別損失	()	()
	()	()
	()	()
	()	()

- 鳥取商事株式会社(決算年/回 3月31日)の次の資料によって、繰越商品勘定および棚卸減耗費勘定を完成しなさい。

資料

- 期首商品棚卸高 3,280,000
- 期末商品棚卸高 帳簿棚卸数量 700個 原価 @5,000
実地棚卸数量 680 正味売却価額 " 4,750

ただし、商品評価損は売上原価の内訳科目とする。また、棚卸減耗費のうち5個分は売上原価の内訳科目とし、残りは営業外費用とする。

- 3 次各文の のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。
- a. 企業会計は、すべての取引につき、 の原則にしたがって、正確な会計帳簿を作成しなければならない。この原則は、すべての取引を整然と組織的に記帳することを要求し、この原則にそった記帳には がもっとも適している。
- b. / 会計期間の売上高と売上原価のように個別に対応するものや、営業外収益や営業外費用のように期間に対応するものは、関連させて に表示しなければならない。これは の原則によるものである。
- c. 商品売買業における売上収益の計上は、原則として、商品の引き渡しとともに、代金として現金や受取手形などの を取得したときにおこなう。この考え方を といい、これによって、資金的な裏付けのある確実な収益を計上することができる。

- | | | | | |
|-----------|------------|----------|----------|----------|
| 1. 費用配分 | 2. 複式簿記 | 3. 明りょう性 | 4. 重要性 | 5. 実現主義 |
| 6. 費用性資産 | 7. 貸借対照表 | 8. 正規の簿記 | 9. 損益計算書 | 10. 単式簿記 |
| 11. 貨幣性資産 | 12. 費用収益対応 | 13. 発生主義 | 14. 総額主義 | |

- 4 中国物産株式会社の総勘定元帳勘定残高と付記事項および決算整理事項によって、報告式の貸借対照表を完成しなさい。
- ただし、i 会社計算規則によること。
ii 会計期間は平成〇年/月/日から平成〇年/2月3/日までとする。

元帳勘定残高

現金	¥ 868,000	当座	¥ 3,840,000	受取手形	¥ 4,200,000
売掛金	5,700,000	貸倒引当金	21,000	有価証券	3,050,000
繰越商品	4,360,000	仮払法人税等	760,000	備品	3,200,000
備品減価償却累計額	1,400,000	土地	10,000,000	投資有価証券	2,500,000
開業費	720,000	支払手形	2,800,000	買掛金	2,140,000
手形借入金	400,000	仮受金	350,000	長期借入金	3,100,000
退職給付引当金	980,000	資本金	19,000,000	資本準備金	2,000,000
利益準備金	350,000	新築積立金	1,300,000	別途積立金	270,000
繰越利益剰余金	180,000	売上	62,300,000	有価証券利息	120,000
仕入	46,541,000	給料	6,240,000	発送費	982,000
広告料	1,480,000	支払家賃	1,560,000	保険料	288,000
租税公課	150,000	雑費	189,000	支払利息	83,000

付記事項

- ① 当座 ¥3,840,000 は、倉敷銀行の当座預金 ¥4,160,000 から尾道銀行の当座借越 ¥320,000 を差し引いた金額である。
- ② 仮受金 ¥350,000 は、下関商店に対する売掛金 ¥200,000 の回収額と岩国商店からの商品注文に対する内金 ¥150,000 であることが判明した。なお、この商品はまだ引き渡していない。

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 ¥4,429,000
- b. 貸倒引当金 受取手形と売掛金の期末残高に対し、それぞれ/%とする。ただし、差額を計上する方法によること。
- c. 有価証券評価高 有価証券は、売買目的で保有する株式であり、時価によって評価する。
山口商事株式会社 50株 帳簿価額 @ ¥61,000 時 価 @ ¥57,000
- d. 備品減価償却高 定率法により、毎期の償却率を25%とする。
- e. 開業費償却高 開業準備のために支出した費用 ¥1,800,000 について、開業のときから5年間にわたって定額法により償却している。なお、当期は会社が開業して4年目である。
- f. 保険料前払高 保険料のうち ¥192,000 は、本年7月/日から/年分の保険料として支払ったものであり、前払高を次期に繰り延べる。
- g. 利息未払高 ¥ 24,000
- h. 退職給付引当金繰入額 ¥ 260,000
- i. 法人税・住民税および事業税額 ¥1,510,000

1

	借方	貸方
a		
b		
c		
d		
e		
f		
g		

2

(1)

a	売上高	¥	b	当期商品仕入高	¥
c	営業費用	¥	d	経常利益	¥
e	特別損失	¥	f	有価証券評価損	¥
g	償却債権取立益	¥	h	当期純利益	¥

②	第8期 ()	商品回転率	回
	第9期 ()		

③	第8期 ()	売上高総利益率	%
	第9期 ()		

(2)

繰越商品	
4/1 前期繰越 ()	3/31 仕入 ()
3/31 () ()	" 商品評価損 170,000
	" () ()
	" 次期繰越 ()
()	()

棚卸減耗費	
3/31 () ()	3/31 仕入 ()
	" () ()
()	()

試験場校	受験番号

会計の1得点

3

a		b		c	
ア	イ	ウ	エ	オ	カ

4

貸借対照表

平成〇年/2月31日

中国物産株式会社

資産の部

I 流動資産					
1.	現金預金		()		
2.	受取手形	()		()	
	()	()		()	
3.	()	()		()	
	()	()		()	
4.	()			()	
5.	()			()	
6.	()			()	
	流動資産合計				()
II 固定資産					
(1) 有形固定資産					
1.	()	()		()	
	()	()		()	
2.	()			()	
	有形固定資産合計				()
(2) 投資その他の資産					
1.	()			()	
	投資その他の資産合計				()
	固定資産合計				()
III 繰延資産					
1.	()			()	
	繰延資産合計				()
	資産合計				()

負債の部

I 流動負債					
1.	支払手形		()		
2.	買掛金		()		
3.	()		()		
4.	()		()		
5.	()		()		
6.	()		()		
	流動負債合計				()
II 固定負債					
1.	()		()		
2.	()		()		
	固定負債合計				()
	負債合計				()

純資産の部

株主資本					
I 資本金					()
II 資本剰余金					
(1)	()		()		
	資本剰余金合計				()
III 利益剰余金					
(1)	()		()		
(2) その他利益剰余金					
1.	新築積立金		()		
2.	別途積立金		()		
3.	()		()		
	(うち当期純利益)				
	利益剰余金合計				()
	純資産合計				()
	負債および純資産合計				()

試験場校	受験番号

会計の2得点

総得点

1

	借 方	貸 方
a	現金 3,980,000	有価証券(または売買目的有価証券) 3,800,000 有価証券売却益 140,000 有価証券利息 40,000
b	機械装置 50,600,000	建設仮勘定 35,000,000 当座預金 15,000,000 現金 600,000
c	割賦売掛金 4,560,000 現金 190,000 割賦仮売上 190,000	割賦仮売上 4,560,000 (割賦)売上 190,000 割賦売掛金 190,000
d	特別修繕引当金 34,000,000 修繕費 3,000,000	当座預金 37,000,000
e	繰越利益剰余金 2,450,000	利益準備金 100,000 未払配当金 2,000,000 別途積立金 350,000
f	社債 49,820,000	減債用定期預金 49,550,000 社債償還益 270,000
g	売上割引 18,000	売掛金 18,000

2 (1)

①

a	売上高 〃	60,000,000	b	当期商品仕入高 〃	43,940,000
c	営業費用 〃	55,082,000	d	経常利益 〃	5,008,000
e	特別損失 〃	1,420,000	f	有価証券評価損 〃	127,000
g	償却債権取立益 〃	53,000	h	当期純利益 〃	2,205,000

②

第8期 ()	商品回転率	12 回
第9期 (○)		

③

第8期 (○)	売上高総利益率	30 %
第9期 ()		

(2)

繰越商品	
4/1 前期繰越 (3,280,000)	3/31 仕入 (3,280,000)
3/31(仕入) (3,500,000)	〃 商品評価損 170,000
	〃 (棚卸減耗費) (100,000)
	〃 次期繰越 (3,230,000)
	<u>(6,780,000)</u>

棚卸減耗費	
3/31(繰越商品) (100,000)	3/31 仕入 (25,000)
	〃 (損益) (75,000)
	<u>(100,000)</u>

3

a		b		c	
ア	イ	ウ	エ	オ	カ
8	2	9	12	11	5

4

貸借対照表

平成〇年/2月3/日

資産の部

I 流動資産

1. 現金預金		(5,028,000)
2. 受取手形	(4,200,000)	
(貸倒引当金)	(42,000)	(4,158,000)
3. (売掛金)	(5,500,000)	
(貸倒引当金)	(55,000)	(5,445,000)
4. (有価証券)		(2,850,000)
5. (商品)		(4,429,000)
6. (前払費用)		(96,000)

流動資産合計

(22,006,000)

II 固定資産

(1) 有形固定資産

1. (備品)	(3,200,000)	
(減価償却累計額)	(1,850,000)	(1,350,000)
2. (土地)		(10,000,000)
有形固定資産合計		(11,350,000)

(2) 投資その他の資産

1. (投資有価証券)		(2,500,000)
投資その他の資産合計		(2,500,000)

固定資産合計

(13,850,000)

III 繰延資産

1. (開業費)		(360,000)
----------	--	-------------

繰延資産合計

(360,000)

資産合計

(36,216,000)

負債の部

I 流動負債

1. 支払手形		(2,800,000)
2. 買掛金		(2,140,000)
3. (短期借入金)		(720,000)
4. (前受金)		(150,000)
5. (未払法人税等)		(750,000)
6. (未払費用)		(24,000)

流動負債合計

(6,584,000)

II 固定負債

1. (長期借入金)		(3,100,000)
2. (退職給付引当金)		(1,240,000)

固定負債合計

(4,340,000)

負債合計

(10,924,000)

純資産の部

株主資本

I 資本金

(19,000,000)

II 資本剰余金

(1) (資本準備金)

(2,000,000)

資本剰余金合計

(2,000,000)

III 利益剰余金

(1) (利益準備金)

(350,000)

(2) その他利益剰余金

1. 新築積立金 (1,300,000)

2. 別途積立金 (270,000)

3. (繰越利益剰余金) (2,372,000)

(うち当期純利益 2,192,000)

利益剰余金合計

(4,292,000)

純資産合計

(25,292,000)

負債および純資産合計

(36,216,000)